

事例6 思考展開シート

(1) 疾病や薬の副作用等の影響は考えられますか？

- ・認知症による見当識障害のため、妻を認識できていないと考えられる場面もあった。妻を見ても「わかりません。」と答える等。
- ・便秘症から下剤使用時に見られる頻繁な排便により、夜間の不眠がある。

【質問】

施設入居後、要介護度・自立度判定基準・認知症の進行なども顕著に表れていますか。(進行していますか)

【回答】

- ・施設入居間もない時期は、苛立つ様子を見せたこともあったが、その後はそのようなことは少なくなった。施設内を徘徊することが多いが、その際も笑顔が多く見られ、話しかけても丁寧な対応をしてくれる。施設での生活は比較的穏やかに過ごしている。
- ・質問にあるような目に見える症状の悪化は特に見られません。

(2) 身体的痛み、便秘・不眠・空腹等による苦痛の影響は考えられますか？

- ・夜間、頻繁なトイレ通所により昼夜の感覚が混乱しているため、日中の倦怠感や傾眠があり、積極的な行動に至らない。

【質問】

尿意・睡眠など身体的健康の影響に基づく混乱はどれくらいの頻度・周期で起きていますか。また、帰宅を望む行動と不眠、頻尿の関係はありますか。

【回答】

- ・夜間帯の排泄の頻度は多く、毎日ではないものの、それに近い頻度でトイレに通われています。これに伴って日中帯の倦怠感が見られることがあります。しかし、帰宅を望む行動と不眠、頻尿との因果関係については、明確には表れていません。

(3) 悲しみ・怒り・寂しさ等の精神的苦痛、また本人の性格等の影響は考えられますか？

- ・家族と離れて暮らす不安と、面会に来て一緒に帰る事が出来ない時の不満。

【質問】

行動や発言に対してこれまでの性格(頑固、支配的)との関係は考えられますか。

【回答】

- ・言動には性格やこれまで過ごしてきた環境が大きく影響していると思います。

(4) 音・光・味・臭い・寒暖等感覚的な苦痛を与える刺激の影響は考えられますか？

- ・夜間帯、常に部屋を明るくして欲しい(消灯することを強く拒否する)という希望。
理由はわからないが、スタッフは暗くすることにより、視覚からの情報が全くなくなることからの不安ではないかと捉えている

【質問】

1日のうちに施設の中で「賑やか 静か」、「明るい 暗い」に対して行動に変化はありますか。例えば、静かだと行動する、うるさいと傾眠状態になる、またはその逆の行動など。

【回答】

- ・カラオケ等のレクリエーション活動に参加した際(賑やかな場面)等は楽しそうな様子が見られます。もちろん、その時の気分や体調にもよるので、一概には言えませんが、周囲の環境に合わせて振舞うことが多いといえます。

本人の言葉や状態
ワークシートC- に書いた、本人の言葉や行動を書き出し、関連のありそうな情報を整理してみましょう。

- ・「俺も帰る。」
- ・「なんで私だけ帰れないんですか。」
- ・「(納得のいかない現状に)ああ、いいですよ！」

(5) 家族・介護者など周囲からの過剰、あるいは少なすぎる関わりの影響は考えられますか？

- ・元々深い人付き合いはされていないものの、商売をしていたことから、丁寧な物腰や口調で対応している。
- ・家族関係は以前より良好で、家族は面会時自分を認識できないAさんと対面し、大きなショックを受けていた。

【質問】

Aさんにとって「家族」の存在と「家に帰る」の「家」とはつながっていると思いますか。例えば、Aさんにとって家とはどのようなシンボルだと想像しますか。

【回答】

- ・精神的な拠り所である「家族」と、自分が帰るべき物質的な「家」とが、彼の中でつながっているかはわかりませんが、家族の面会時に「家に帰る。」との訴えがある背景には「家」に行きたいのではなく、「妻と一緒にいたい。」という想いがあると思います。

(6) 障害程度・能力の発揮に対して、住まい・器具・物品等物的環境による影響は考えられますか？

- ・仕事柄、訪れる客や訪問先の客、と常に人と関わる事の多い生活環境であった。
- ・居室に飾ってある昔の自分の写真を見て、「これは良い時の私です。」と寂しげに笑いながら話すことがある。

【質問】

写真以外に本人にとって気持ちの結びつくもの、気を引くような物品や音楽、服などが身の回りにありますか。

【回答】

- ・衣類品や居室の棚等、普段本人が使用するものの多くは、自分のものを使用しており、本人にとって馴染みのものが多いと思います。ただし、昔の思い出のある時代を想像する象徴が写真であり、本人にとってこれが最も自慢なものだと思います。

(7) 要望・障害程度・能力の発揮と、アクティビティー(活動)とのズレによる影響は考えられますか？

- ・元々無趣味に近いが、自ら車を運転し外出する事が楽しみであった。仕事に関しては徐々に妻が中心になっていく中で、サポートに回る事が自分の役割と感じていた。

【質問】

施設の中で、人の役に立つこと、中心的な役割や自己有用感を感じる行動や活動のエピソードはありますか。

【回答】

- ・男性利用者には珍しく、洗濯物やタオルをたたむことが好きで、ユニット内で役割を持っていただいております。その都度、スタッフからは感謝の言葉をかけ、有用感を感じられるよう対応しています。

(8) 生活歴・価値観等に基づいた暮らし方と、現状とのズレによる影響は考えられますか？

- ・家族と営んできた仕事とは別に、自分の抱いていた夢が叶わなかったことについて、頻繁では無いが話すことがある。

【質問】

父親として、夫として、世帯主、社長として自分が果たしてきたこと、現実のズレが起きていると考えますか。

【回答】

- ・質問の部分は、最も注意して関わりたいところでもあります。これまで本人が過ごしてきた父、夫、世帯主、社長としての役割と、現状の生活にはギャップがあります。認知症が進行し、できないことが多くなる一方で、自尊心に配慮した関わりに気をつけています。